

鳥取県南部町の 「地域振興協議会」による地域づくり



鳥取県 南部町長 坂本昭文

平成28年10月4日

● 南部町の位置

鳥取県の西部にあるけど「南部」町

鳥取県
TOTTORI-KEN

(平成16年に
会見町と西伯町
が合併)

南部町
NANBU-CHO



- 面積 114km²
- 人口 11,214人(3,837世帯) 92集落
 - うち独居世帯 497世帯
 - うち高齢者世帯 509世帯

- 高齢者数 3,792人
 - 高齢化率 33.8%
- (H28年3月31日現在)

- 要介護認定者数 688人
- 要介護認定率 18.1%
- 介護保険料 5,417 円(県下最低)
- 地域包括支援センター 1箇所(直営)
- 198床西伯病院、100床全室個室のユニットケア特老

重要な里地、里山に指定

- * 昨年12月、環境省は国家戦略の一環で、人口減少や高齢化などで里地、里山をすべて残す事は不可能として、特に重要な500地点を選定した
- * 全国で7つの自治体が全域指定となり、
- * 南部町は西日本で唯一のまちぐるみ指定
- * 観光戦略、農作物のブランド化、CCRC推進などに活用する

美しい里地、里山（母塚山より大山を望む）



美しい里地、里山の豊かな文化

一式飾り



子供歌舞伎



美しい里地、里山の特産品

二十世紀梨

富有柿は西日本一の産地



地域づくりの経過(その1)

- * 南部町の誕生 平成16年10月1日
会見町と西伯町の2町合併、新町への期待感あり
新町の総合計画に地域自治組織づくりを謳う

地域の課題は地域で解決し、自分たちの地域は
自分たちで創っていく、住民が責任と誇りを持って
取り組める新しい仕組みづくりを提案

行政と住民の協働の場づくり！

なぜ新しい組織が必要なのか

- * 少子高齢化、集落の担い手不足
- * 地域コミュニティの弱体化
- * 98集落の規模差があり、同一施策で過不足の発生
- * 国と地方の関係の変化、地方分権の推進、地域の自主性
- * 身近な地域課題を、住民が力を合わせ解決できる自治体内分権する組織が必要

地域づくりの経過(その2)

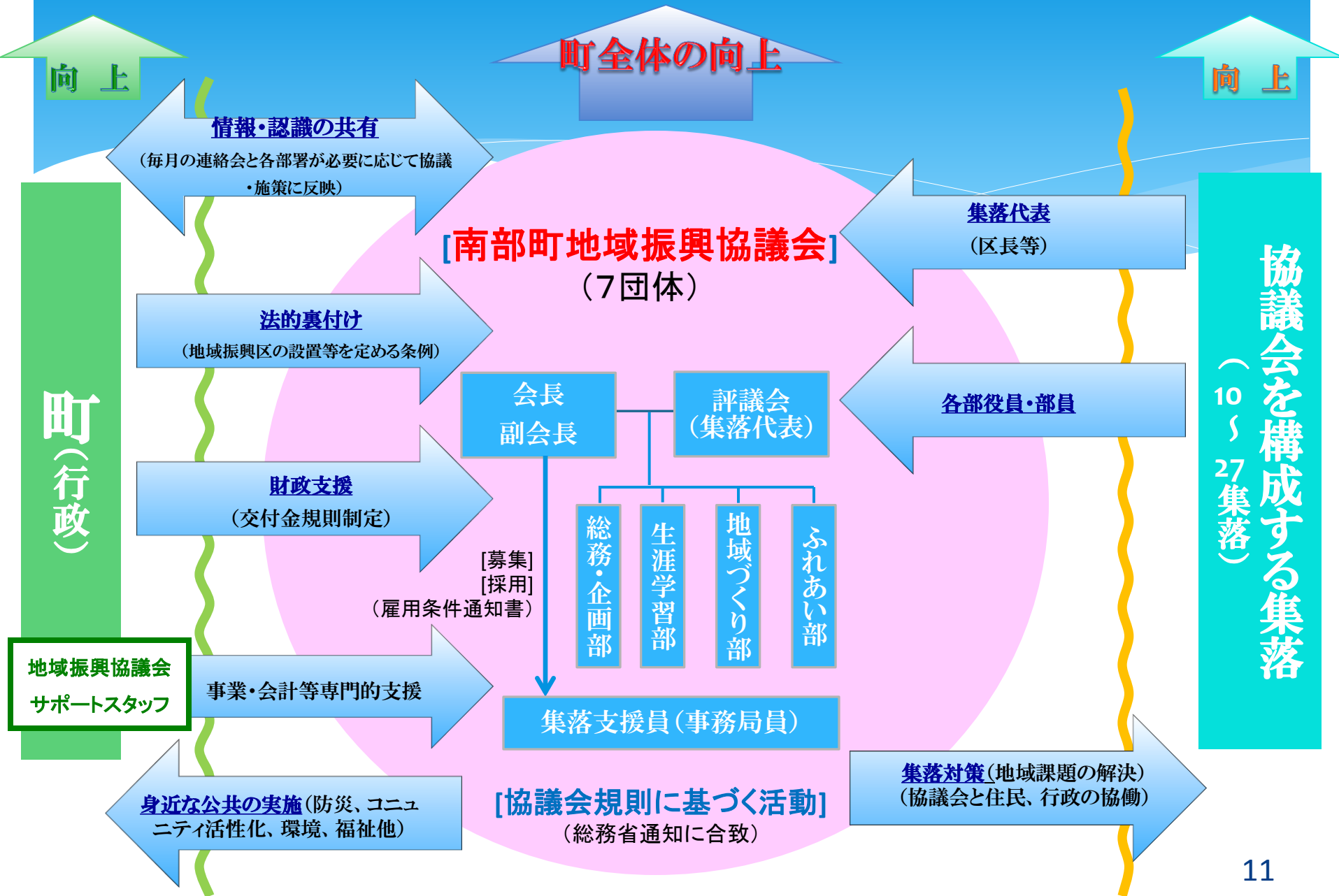
- * 地域政策課の設置(平成16年10月)
- * 住民への説明会、地域づくり懇談会の実施(平成17年2月～19年6月の間)
 - 区長会説明の開催
 - 地域づくり講演会
 - 地区住民説明会・懇談会の開催

約180回 出席者数4千人超

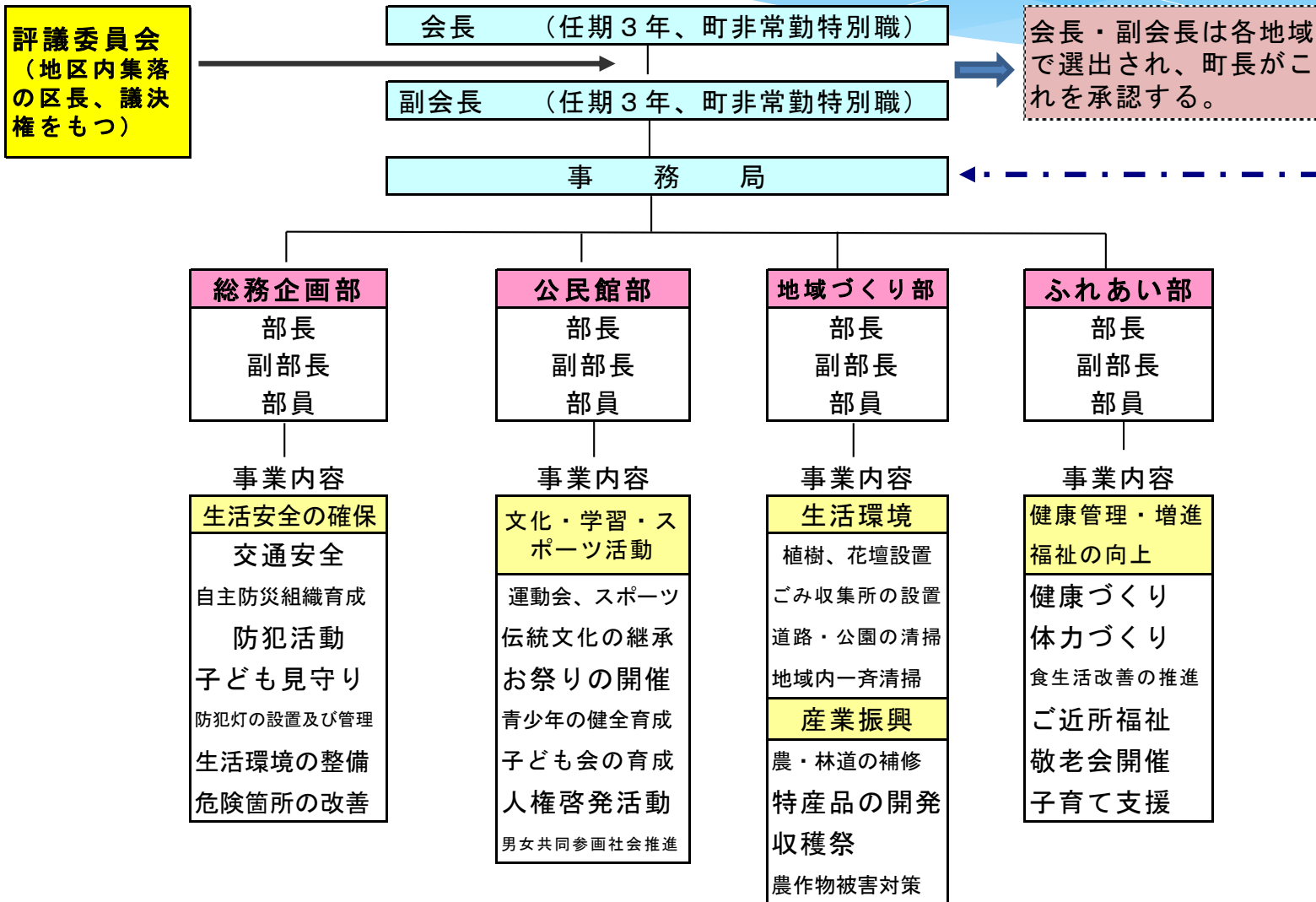
職員体制について

- * 平成19年4月～
運営支援のため、町からの支援職員を2名配置(課長級、一般職)
- * 平成19年7月1日
地域振興協議会 会長、副会長を町非常勤特別職として辞令交付
- * 平成21年4月～
町内全集落に自主防災組織を立ち上げることを目的に、7協議会に各1名ずつ「防災コーディネーター」を配置
- * 平成22年4月
支援職員のうち一般職を引き上げ、地元採用職員を雇用
- * 平成23年4月
支援職員を完全に引き上げ、協議会と町との連携窓口として「地域振興協議会サポートスタッフ」(非常勤職員)を導入、町企画政策課に1名配置

南部町7地域振興協議会と集落(住民)、行政との連携フロー



組織体制及び共通する活動分野



地元採用の事務局員2名

町交付金の内訳

既存予算は従来予算とほぼ同等額

新規事業予算
4,891千円

事務局員人件費
(特別交付税措置)
29,177千円

従来からあった予算
(区長手当、文書配布、
敬老会、公民館)
19,796千円

平成27年度決算額 53,865千円

1協議会当り 700万円～800万円

◎この他に指定管理料など30,831千円(協議会平均440万円余)の収入がある。

事例紹介① 全ての協議会による 登下校時の子ども見守り活動



青パト隊などによる防犯パトロールや地域見守り活動、交通安全運動も実施

事例紹介② 南さいはく地域振興協議会 地域の公共交通につなぐ 共助交通システムの運行



週2回、交通弱者の外出をサポートするため、集落から最寄りのバス停まで送迎

事例紹介③ あいみ手間山地域振興協議会 あいみ富有の里地域振興協議会

路線バス存続活動 自転車積み込み



事例紹介④ 南さいはく地域振興協議会 地域の特産品を開発し都市との交流に活かす 特産化研究部会による「うどん食味会」



平成26年春に
うどん羊羹「翠甘」が完成！
4000本を売り上げた！



毎年5月に開催、毎回大盛況の「うどん食味会」

事例紹介⑤ 南さいはく地域振興協議会 ふれあい部による見守り活動 独居・高齢者世帯への配食サービス



お節、おはぎ、しそジュース、生姜湯等など、「季節の旬」を届けます！ 18

事例紹介⑥ 法勝寺地区地域振興協議会 小学校との農業体験交流



西伯小学校や米子市法勝寺町と
農業体験を通じての交流

田植え、野菜苗やイモ苗植えから
収穫までを体験



事例紹介⑦ 法勝寺地区地域振興協議会 地域の防災・減災をみんなで考えよう！ 災害図上訓練「DIG(ディグ)」



「DIG(ディグ)」とは・・・

地図上に災害時に予測される地帯や
事態を書き込んでいく、地図上で行う訓練



「いきいきサロン」などで自分たちの住む集落の強みや弱み、災害時に何をすべきかを話し合う

事例紹介⑧ 大國地域振興協議会 集落単位での地域防災組織育成



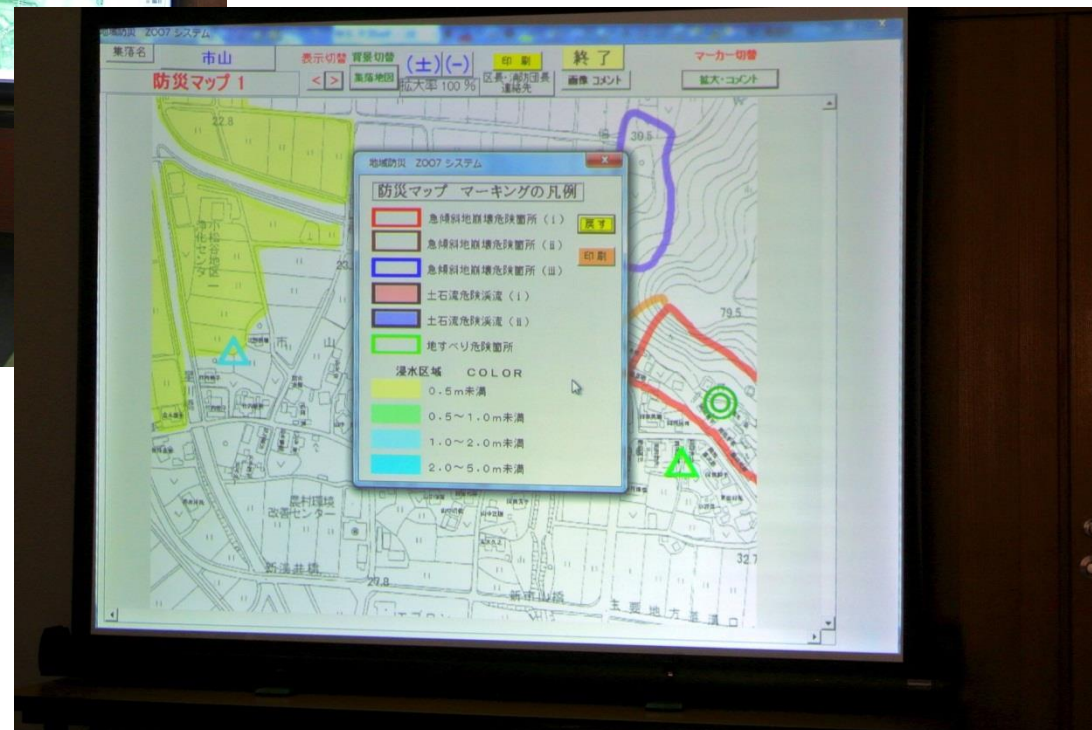
災害時は地域内の企業も避難所や
救援戦力に！！

事例紹介⑨ あいみ富有の里地域振興協議会 電子版地域防災マップの開発



原発事故時の
放射能拡散シミュレーションの開発も。

防災マップ開発者の岡田善治氏。
趣味のプログラミングを活かし、
Excelにて開発！！



事例紹介⑩ 東西町地域振興協議会 自分たちの地域は自分たちで守る 防災訓練 土嚢積み



事例紹介⑪ 天津地域振興協議会 住民によるグランド芝生化作業



平成23年6月に芝生化を実施。

住民運動会やグランドゴルフ、
サッカーなどでフル活用中！！

事例紹介⑫ 天津地域振興協議会 母塚山での環境パトロール 不法投棄との戦い



警察による投棄者の捜査、
町外者逮捕へつながる！！

事例紹介⑬ あいみ手間山地域振興協議会 エコツアーリズム手間山 要害山登山道整備と樹木プレート設置



米子市からの登山者も多くあり、自然観察員による「自然観察会」も大人気です！

事例紹介⑭ 東西町地域振興協議会 保護者の仕事と子育ての両立を支援 東西町放課後児童クラブを開級



平成24年4月、保護者の仕事と子育ての両立を支援するために開級。放課後や春・夏・冬休み、土日等の学校休業日に、家庭に代わる生活の場を確保し、遊びや学習・生活指導を行っており、地区挙げての子育て意識の醸成につながっています。

事例紹介⑮ 東西町地域振興協議会 “全国初”の取組みとして注目 東西町コミュニティホーム「西町の郷」の開所



「鳥取型地域生活支援システムモデル事業（地域コミュニティホーム事業）」を活用し、自宅での暮らしと同じように過ごせる居場所として平成25年6月24日に開所。全国初の取組みとして注目され、これまで平井知事を初め400名以上（約40団体）の視察の受け入れを実施。

事例紹介①⑥ 東西町地域振興協議会 認知症SOSネットワーク訓練

認知症になっても地域で暮らしていける仕組みづくり



搜索の初動体制 = 公的機関 + 地域の見守りネットワーク

事例紹介⑰ 道づくりもみんな



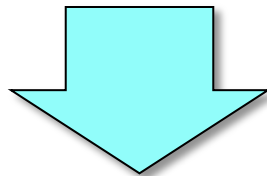
事例紹介⑱ 町が設置したまちの保健室



見えてきた課題と今後の取り組み

- 糖尿病と脂質異常症の服薬者が**県内で一番多い**。
- 男女ともに40歳～50歳に生活習慣病の治療を必要とする方が急増している。
- 腎臓機能低下者(将来、透析の可能性の高い人)が**県内で一番多い**。
- 南部町の半数が生活習慣病による死亡。
- ◎**高血圧・糖尿病・脂質異常症の服薬者が多い反面、生活習慣改善意欲が低い。**
- ◎**国保加入者ばかりでなく他保加入者への働きかけも必要。**

透析患者1人あたり
年間400～500万円
の医療費が！



糖尿病患者の
重症化予防を！

- ◎(インセンティブ事業)がんばった人、健康をキープしている人を表彰。
- ◎魅力的な健診づくり → 「女の祭り」、「男の肉祭り」
- ◎地域での様々な特性を生かした食生活改善→薬膳教室。
- ◎健康ブランド化→ 特産品をいかした機能性食品の開発。
- ◎データは分析し「見える化」する。→HPで、住民へ、健康増進委員さんへ還元

地域振興協議会発足後10年の効果

町職員の手が届かないきめ細かな事業展開

- 集落ごとの防災訓練、交通指導
- ご近所福祉、地域見守り(子どもからお年寄りまで)
- 文化・スポーツ活動の活性化が地域の潤滑油
- 環境美化、都市交流
- 町政推進の事業フレームで多彩な事業の展開

地域の課題の共有化、人材の発掘

活動を通じて住民の自治意識と参加が向上

地域振興協議会の受けた 表彰・感謝状

* 表彰

国土交通大臣表彰

まちづくり功労賞

消防庁長官表彰

防災まちづくり大賞

知事表彰

9回

頑張る住民自治活動団体表彰他

県警本部表彰

3回

防犯功労団体表彰他

* 感謝状

米子警察署長、米子地区防犯協議会長、

他3団体より

9回

今後の課題（10年の経験を踏まえ）

- * 自主財源の確立で自信と自治の深化をはかる
- * 協議会を支える地域の人づくり－事業化により生計を維持できる雇用を創出
- * 雇用の安定には法人化が必要－現在は条例で定める任意団体
社会的信用、不動産の所有、雇用・契約、問題発生時などは法人格がないと不利
- * 高齢者の居場所づくり
介護保険制度が変わっていく中で、高齢者の居場所づくりをどのように進めていくか

法人化することにより

* コミュニティービジネスを各地域で展開することにより雇用創出を実現し、地域の活性化を図りたい

集落内ヘルパー、 共助交通の運営

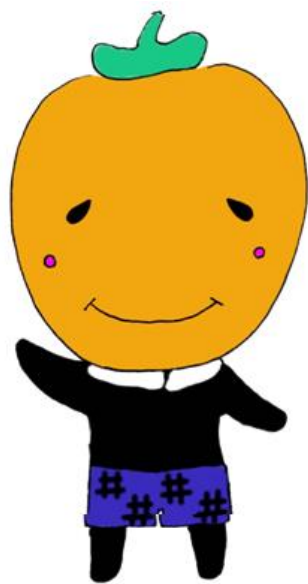
林業・農業の担い手育成、 庭先集荷サービスの展開

農産物等の六次産業化

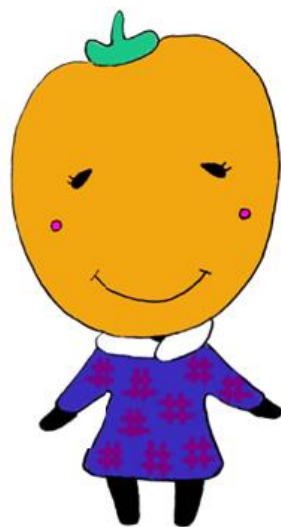
空き家管理サービス事業

買い物支援事業 等等 …

【目標】7協議会 × 5名 = 35名の雇用創出



ユークン



フーちゃん



ご清聴ありがとうございました